

観中人権だより

2025年度《No.5》

2025/9/26(金)

観音寺市立観音寺中学校

観音寺中学校教育講演会

9月20日(土)に教育講演会が開かれました。元高校教師の繁樹義一さんから

「いのちの根っこにある人権 ～ことほぎの心～」という演題でご講演いただきました。

繁樹さんは、昨年度まで愛媛県の高等学校で教鞭を執り、人権・同和教育の推進に尽力されました。引退後は農業を営むかたわら、講演活動を行っています。現在まで6枚のCDアルバムを発表し、多くのマスコミで取り上げられています。西日本各地で依頼を受け、これまで960回を超える講演を行っています。

〈繁樹さんの講演より〉

○ 「100人中、100人に好かれようなんて、思わない方がいいよ。
10人は自分のことを嫌ってくる。

80人はどうでもいいと思っている。でも、

自分を好いてくれる人が10人いてくれたら・・・その人のために・・・

人生は相当楽しくて、特別なものになるよ。」

○ 「わたし」は「あなた」だったかもしれない



○ 戦争は始まってからでは、止められない。

○ 言祝ぎ（ことほぎ）や 寿ぎ（ことほぎ）と書きます。

おめでたい気持ちを口にして幸福を招き入れるという、先人の思いです。

○ 口に出す言葉をポジティブにすると、心に良い影響を与える。



ご自身の体験も踏まえ、歌を交えて講演していただき、「社会について正しい知識を学び、次世代につなげていくこと」と教えていただきました。

1年生の感想から

○アンパンマンのお話で、正義とは「お腹がすいている人に自分の食べ物をわけてあげること」と聴いて、朝ドラ「あんぱん」を自分も見ているから、人のために動くってすごく大切だなと思いました。戦争を起こさないために国民が政府を選ばなければいけない、日本のためにもこの私の1票が大切と知り、大きくなったら考えて投票したいと思いました。

○「お互いに、相手が自由な存在であることを認め合う」という言葉が心に残りました。なぜなら、これなら差別ということも少なくなり、自分の命を大事にすることができると思ったからです。それと納得したのは「100人中、100人に好かれようなんて思わない方がいいよ」という話です。それを聴いて自分が楽になったし、ぴったりだなと思ったからです。今日の話家を家に帰って話をしたいと思いました。

○私は、「何のために生きるのか」という問いに対して「生きていて良かったと思うために生きている」という答えがとても心に残っています。それと戦争は、どんな理由があったとしてもしてはいけないし、戦争からは悲しみ以外に何も生み出されないということが改めて分かりました。これからも人権意識を大切に生活していきたいです。

○私は講演会を終えて、分かったことがたくさんありました。まず、命を支えているのは人権の文化と平和の文化なの分かり、人に親切に優しくすると、巡り巡って自分に返ってくることや困っている人・悲しんでいる人にそっと手をさしのべることは日本の文化で、日本人の美しさなの分かりました。

2年生の感想から

- 人権は誰にでもある大事なものだということがよく分かりました。戦争は、絶対にあってはいけなし、無差別に人の命や人生を奪っているものだから、無くしていくものだと思います。100人全員に好かれようとしなくていい。という言葉がとても心に残りました。確かに100人全員が自分のことを好きではないかもしれないけど、10人は自分のことを好いてくれるからその人のために生きていくと人生は楽しく、特別になるという考えはとても素敵で、私もそういう考え方で生きていこうと思いました。
- 今まで差別とは無縁、関係ないと思っていたけど、人権講演会を終えて、それはただ関わりたくなくて逃げているだけ、自分は差別をしていないと信じたくて目をそらしているだけだということに気づきました。「差別」というものに基準はなくて、どこからどこまでが差別にカウントされるのか、自分でも分からないときがあります。私も知らない間に人を傷つけたり、下に見ていたたりするかもしれないと思いました。今日学んだことをいつも心に置いて、忘れないように生活していきたいです。
- 戦争はあってはならないものだけど、それを始めたら止めることができない。だから、始まる前に止めるという言葉がすごく響いたし、物事の始めに本当にそれが正解かを考えたいと思った。「人権」についてたくさん大切なことを知ることができた。
- 「生まれながらに尊い人もいなければ、生まれながらに卑しい人もいない」と「えらい人をつくるからえらい人ができる」が心に残りました。生まれたときもその後も位が高い人、低い人などなく、人は水平な関係にあることを学びました。「口に出す言葉をポジティブにすると、心に良い影響を与える」と知り、今までネガティブなことをたくさん言ったことがあるけど、これからはポジティブをたくさん言っていきたいです。
- 今回の講演で印象に残ったことがいくつかあります。私は人生を過ごしていく上で、嬉しいことがたくさんあります。だから、私を好いてくれる人のためにも一生懸命生きて、嬉しいことを増やしたいと思いました。

3年生の感想から

- 人権や一人ひとりの存在を大切にするためには、感性や相手に対しての思いやりが大切なんだと思いました。世界、もちろん日本も過去に間違った行動や悲惨なことをたくさんしていました。その間違いを2度としないようにしたいし、たくさんの人に戦争や差別をしない社会・世界をつくるための行動や思いになってほしいと思いました。生まれた人などが幸せに満足して、天寿を全うできますように。
- 平和の反対は戦争ということを知っていたけど、もう一つ間接的暴力の差別なども平和とは反対なのが印象に残った。一つ一つの言葉の重みを理解して、発言しなければならないと思った。人を労ったり、自分を棚に上げたりするのではなく、平等で水平にする尊厳をもとうと思った。これからの日本が永遠に平和であってほしいと願う。
- 今まで考えてもなかった事を考えさせられました。特に心に残ったのは、「100人いて10人好いてくれる人がいればいい。」という考え方です。私は、いつも人に好かれようと、嫌われたくないと、自分に素直になれない時があります。でも、全員に好かれるはずはないし、10人ぐらいからは嫌われてしまうのが普通なのかと、考えを改めることができました。今後の人生において、希望が持てたし、心が軽くなりました。本当にこの講演を聴くことができて良かったです。
- チャップリンの「人はみんな見下し合いたくない」というスピーチの話から、本当にそうだよなってすごく納得したし、人を喜劇で笑顔にしてくれたチャップリンだからこそその説得力があると思いました。私は、傲慢さや驕り高ぶる心は自分自身を認めることができた時、初めて消えるのかなと思いました。自分も他人も認められるようになりたいです。
- 自分を大切にしてくれる人のために生きるという考え方は人生を明るくしてくれる素敵なものだと思います。松山の高校の生徒のために作った歌を聴いて、川に橋をかけようなどのフレーズから、人は考え方を変えることで気持ちに自信がもてるようになると思いました。この曲は人に勇気を与えて、とても印象に残りました。
- 「えらい人」や「えらいくない人」という区別をつけるのをやめようという考え方になるほどと共感しました。また、何か間違っていることがあれば違うと抗議することが大切なんだと思いました。自分もそのようなことがはっきりと言え、正しい知識をもつ大人になっていきたいと思いました。